



「学力(学習力)」のとらえ方と「人格形成」 ～二人の言葉から～

「学力」と「人格形成」とは人が成長していくときに、いずれも欠かせない、いわば車の両輪として考えられるものです。「学力」向上と意識するとき、常に、「人格」の部分が伴ってきているか、自らに問いかけ、問い直していく必要があります。

今年の進路課目標である「学習力」とは、「学力」が結果として獲得した学問的力と少し違い、過程に光をあて、努力する力であるとか、努力した結果培った人間性をも意味すると考えます。

ぜひ、みなさんには、努力の過程(プロセス)で、本来の意味の人格を身につけていってほしいと願っているところです。以下に、二人の論客の考え方を引用します。

◎評論家で元経済企画庁長官の堺屋太一氏は、ある講演で、「学力」について次のように述べています。

「試験というものには、2つの特徴があります。1つは、答えのない問題はないということです。試験の問題には、必ず正解があります。もう1つは、やさしい問題から解いた方が有利だということです。だから、試験を受ける時は、問題をずらっと読んで、易しい問題から解く。答えがあると分かっているということは、前例があるということです。易しい問題は着手しやすいということです。(中略)そうすると、社会に出て、答えの分からない問題や改革すべき問題については、どんどん先に延ばしていく。今、新しく難しい事業を提案し、実行しようとする人が、非常に少なくなった。これが、現代社会の特徴だと考えています。『学力』とは何か、しっかりと考えてほしいものです。」※やはり、表面的な学習だけでは、社会に出てもままならないということです。授業等で、しっかりと、じっくりと考える。これこそが、本来の意味での「学力」つまり「学習力」だといえますね。

◎東京大学の元総長である佐々木毅氏は、ある講演で、「人格」について次のように述べています。

「受験勉強は、人生そのものを比較した場合、実に例外的な、片隅の競争でしかないものです。(中略)『リーダー』になるとうことは、報われないことを覚悟して、人一倍大きな責任を引き受けることができる、それを厭(いと)わない人間であるということ、当然に前提としています。本当の意味での『人格』というものを、当然に身につけた人間ということになるでしょう。」※落合高校の生徒は、学校全体で行う奉仕活動や作業の際、実に快く、困難な作業であってもいとわず行動できる人材の集団です。このことに誇りを持つべきと考えます。

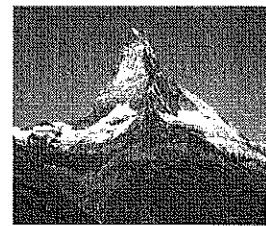
小論文ワンポイントアドバイス : 「読み手を納得させる方法」

小論文で、相手を納得させる方法を以下に3点掲げます。

1 主題の根拠を明示する

(例文) アルプスの名高い諸峰のうち、マッターホルンは崇高な山の代表として仰がれている。なぜ、この山が崇高に見えるかという点、上へ上へと高まろうとする巨大な山容が第一の条件、それから、雪で真白に覆われた清浄さが第二の条件、そして、稜線が鋭く、はだに割れ目があることが第三の条件である。

(島崎敏樹「心で見える世界」から) ※右写真のように、鋭角な威容を誇る山ですね。



2 根拠となる数値を明示する

(例文) コメと日本人とは、有史以来、切っても切れない関係にある。一昔前の一般的な家庭での食事風景を思い起こしてみると、米飯に魚の塩焼き、根菜類の煮物、味噌汁、青菜の浸しや漬け物といったメニューが浮かんでくるのだが、この場合、米飯には実に60%を超える熱量を負担させないと成り立たない。現在でも半減したとはいえ全エネルギーの30%を米飯に頼っているというのだから、日本人のコメに対するこだわりは大きい。

(漆山治「コメ作り社会とビジネス社会」から) ※日本型食生活は最も理想的として、再認識されていますね。炭水化物62.7%が栄養バランス適性比率。もちろん、コメを主食とした食事以外にも様々な形態があります。

3 身近なものから、一般化する

(例) 「家族は大切だ。」ということ、より客観性のあるものにするためには、①私の祖母は優しいから。②母はいつも弁当を作ってくれるから、などでは個人的な理由から一步の踏み出せていませんね。もっと、「家族とはどのようなものなのか。」という命題にまで踏み込んで考えることです。【改善例】「①家族とは精神的支えとなるものだから。②家族とは人が生きていく上の基盤となり、かけがえのないものであるから。」などと、一般化がなされた文章とするのが望ましいと思います。※要するに、「命題」としてとらえることが肝要なのですね。